和光中学校学校通信　*生徒会スローガン「自学豊心 ～前向き・励まし・思いやり～」*

ひかり

令和５年１月27日
第 17 号

逃げずに踏ん張ったその先に

４年前の 12 月 30 日、34 歳になった生徒たちの学年同窓会に参加しました。長い年月を経て再会を果たした生徒たちは、今や立派に成長し、多くの人が父となり、母となっていました。

懐かしい昔話に花を咲かせていると、ある人が駆け寄ってきました。振り返ってみるとＡ君でした。少しふっくらしたものの、昔の面影を残したままのＡ君は、「先生、あの時はありがとうございました。」と言い、頭をかきながら照れ笑いをしたのです。

Ａ君が言うところの「あの時」とは、中学校時代を指すのではなく高校３年生の２月のこと。寒空の下、ほとんど街灯がない暗闇のカーブ道をひたすら「なんでやー！」と叫びながら車を走らせたあの夜の記憶が、そのとき一気によみ返ってきました。

同窓会の日から約 16 年前のある日、Ａ君と同じクラスだったＨ君から携帯に連絡が入り、「先生、Ａが高校をクビになったらしいで。」と言うのです。中３の担任として共に受験戦争を戦い、第１希望の公立高校に進んだはずのＡ君が、なぜ卒業を目前にして退学しなければならなかったのか･･･この問いを頭の中で何度繰り返したところで、答えはまったく見つかりませんでした。居ても立ってもいられず、気がついたらＡ君の家に向かって車を走らせていました。今思えば、ご家族に連絡をした上で行くべきだったのですが、そんな常識的なことにさえ気が回りませんでした。あれから 16 年の月日が過ぎ、同窓会の場で、Ａ君があの夜の家庭訪問のことを次のように語ってくれました。

「先生、いきなり来たんでびっくりしたわ。あの時、たまたＭとＴも一緒におって、２人の金髪頭を見るなり、『オマエら２人も一緒に正座せー！』言うて、３人一緒に正座して怒られたわー。ほんでも、あの時本気で怒ってくれたん、ほんまにありがたいと思う。今、オレのこと怒ってくれるん嫁だけになったわ。」と言って、周りの人の笑いを誘い、続けて語りました。「ほんで、言うたんで、『学校をクビになったけん、もうどうでもええ言うて逃げたら絶対に許さん！別の学校へ行き直して単位を取って高校を卒業して、中学校の時の夢を叶えるために上の学校へ行け！うん、と返事するまで帰らんぞ。うん、と返事しておいて嘘をついて逃げたら、毎晩でも家に来る！』」と。

その後、Ａ君は別の高校を卒業し、専門学校に進み、今の仕事に就いています。同窓会の最後で、進行役が「各クラスの中から、我こそはという人は前に出て、担任の先生にお花と記念品を贈呈してください。」と言ったとき、会場を見渡すと、Ａ君がさっと手を挙げ、目の前に歩いてきました。Ａ君が右の写真の花を手渡してくれた瞬間、一気に熱いものが込み上げてきました。すっかり成長して一児の父となった姿が何とも誇らしく、涙があふれてきました。

Ａ君が言うように、20 年前のあの夜、彼にかけた言葉が道に迷う彼の目を覚まさせたのかもしれません。が、彼自身が逃げずに踏ん張って中学時代の夢を叶え、社会人として胸を張って生きている姿こそが、心配をかけたご両親やご家族の支えとなっているのです。

３年生の皆さん、受験の重圧に挫けそうになるときもあると思います。どうか、苦しくても逃げ出さずに踏ん張り『弱気』と戦い続けてください。『人生の春』はすぐそこです。

〔保護者の皆様へ〕

今年も引き続き、教職員全員で力を合わせ、お子様の成長を支援させていただきます。今後とも、どうかご家庭のお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。